

様式B

令和7年度 幼稚園 ゆめプラン評価公表シート

和歌山市立中之島幼稚園

教育目標 主体的で、感性豊かな子供を育てる。

ゆめ	重点目標	具体的取組	取組の状況
主体的に遊ぶ子供を育てる	豊かな環境を構成	子ども一人一人が興味や関心を持ち、自分で考え選んで遊べるような環境の工夫をする。	教師との信頼関係を基盤に安心して生活できることを心がけた。職員からの否定的な言葉かけがなくなるように環境を整え精査した。また子供を肯定的に捉える心構えをもち、遊びの1歩目を大切に思いに寄り添うようにしてきた。
		身近な自然に関わり、豊かな体験ができるように、四季折々の野菜や果物を育てたり、身近な生き物に触れられるような環境を整えたりする。	実のなる木々が園内にあることで、季節による変化を感じやすかったり、身近な野菜や果物を味わい季節の味覚を味わったりできるようにしている。季節の花(野菜)を植えて自由に遊びに使えるようにしたり、あえて虫がよってくるよう草をはやしったりしている。子供の目につき、興味がもちやすいように栽培場所を工夫した。
		職員で子供の様子を共有し、子供の姿に合わせて、その都度環境を見直していく。	全職員で、子供の遊びの様子や育ちをしっかりと捉え、子供たちの興味や関心が広がっていくように、また深まっていくように環境の見直しをしてきた。時には子供と一緒に改善していった。
	やってみようとする心を育む	一人一人の思いを受け止め、尊重した関わりを心がけることで、やってみようと思える安心感と期待を持てるようにする。	一人一人の思いを大切に、認めたり、共感したりすることで安心して自分の思いをだせるように心がけている。じっくり遊び込める時間を確保し自分の試したいことを何度でもできるという安心感、満足感そして次のやりたいことへの期待がもてるようになってきた。
		十分に遊び込める時間を確保し、一人一人が考えたり試したりして遊ぶ中で、達成感や充実感を味わえるようにする。	自分で好きな遊びを見つけ、しっかりと遊び込める時間を確保し、考えたり、試したり、工夫したりする力が育めるように環境構成を行い、満足感や充実感が感じられるようになってきた。
		子供の育ちを保護者と共有し、共に喜び、見守る関係を築いていくことで、子供の安心と意欲につながるようにする。	・対話を大切に捉え、登降園時や懇談等で子供の様子や育ちや課題等を伝え共有しているが、保護者がどれだけ理解しているかどうかかわからないと感じることがある、 ・クラスだよりは保護者にわかりやすいように、写真を使って子供たちの遊びの様子や担当の考えや思い等を伝えるようにしている。
	人と関わる力を育む	思いを伝え合ったり、相手の気持ちを受け止めたりしながら、友達と気持ちを通わせる喜びを感じられるようにする。	子供達のかかわりを見守り自分なりに伝えようとする姿を受け止め、共感したり必要に応じて言葉をつけ足したり代弁したりして、自分の思いが伝わった嬉しさを感じられるようにする。またその気持ちに寄り添うようにする。その経験が次につながっていくように、全職員で共有し見守るようにした。
		遊びや生活の中で、異年齢児や地域の方と触れ合い、つながりや親しみを感じられるようにする。	異年齢がどこでもいつでも誰とでも遊べる場や雰囲気をつくりだした。教師に言われるのではなく自然に関わっていく姿が見られ、思いやりや優しい気持ちを含めたいろんな感情体験ができていてと感じている。園内にボランティアの方に来ていただき関わられるようになってきた。
		小学校生活に期待をもったり、小学生に憧れや親しみをもったりできるように、小学校との交流を深め、連携を図る。	幼、小の担当が年度当初に全職員が幼稚園で集まる機会をもったことで、互いに職員同士の交流ができた。昨年に引き続き計画して交流遊びや合同の避難訓練等も実施。また休憩時間の触れあいや、体育の授業見学や参加等、自然に児童や小学校の先生と触れ合うことで、園児がより小学校に興味や関心を持つことができた。また幼児期の児童の様子を現担任に伝えることができ連携を図ることができてきている。

保護者アンケート集計結果の比較から見えてきた成果や課題

成果としては、園全体の教育活動について、非常に高い肯定的評価が得られた。特に教職員が一人一人の子供の思いに寄り添い安心して過ごせる環境を整えていること、また自然との関わりや野菜栽培、遊び込める時間の確保といった取組が子供たちの意欲や主体性の育ちにつながっていることがうかがえる。またお子さま一人一人の姿についても園生活を楽しみに安心してほしい遊びに取り組んでいる様子や友達と関わりながら遊ぶ姿が増えていることが、評価されている。一方で園での出来事を家庭で自分から話す姿や、自然・植物・生き物への関心は「わからない」とする回答が見られた。このことから園での子供の育ちや学びが十分に伝わりきれていない場面があることが課題としてあげられる。

今年度の取組の成果と課題・今後の改善方策

今年度も「主体的に遊ぶ子供を育てる」ことを目標に子供一人一人の「やりたい」という思いを大切に環境構成と援助に取り組んできた。その結果子供が安心して自分の思いを表現し、試したり考えたりしながら遊びを深める姿や、友達や異年齢児と関わりながら思いやりの気持ちを育む姿が多くみられるようになった。また自然や生活体験を通して主体的に遊ぶ力が積み重なってきていることが成果としてあげられる。今後はこれまでの実践を大切にしながら、子供の遊びの過程や気づき、育ちの姿を家庭へわかりやすく伝える。自然や生き物との関わりが、どのように子供の学びや心の育ちにつながっているのかを職員間で共有していけるようにしていきたい。また園と家庭が同じ視点で子供の育ちを見守れるよう伝え方の工夫を進めていかなければならないと感じている。引き続き子供の「やってみよう」を支える環境と援助を職員全体で考え、一人一人の育ちを支えていけるようにしていきたいと考えている。

学校(幼稚園)関係者評価委員による自己評価の検証

幼稚園は、子供たちの姿や思いに寄り添うことを大切に、「やりたい」気持ちが実現していけるように環境を工夫して取り組んでいる。先生たちの言葉かけや関わり方が穏やかで、保護者も安心している。子供たちが直に触れあい、遊ぶ経験はとても大切なことであり、たっぷり遊び込める時間を確保していることで、主体的に遊ぼうとする子供が育ってきている。今後も子供たちが安心して過ごせるよう取り組んでいってほしい。